



凡例

浸水深 (m)

0.3m未満	3.0m以上	5.0m未満
0.3m以上 0.5m未満	5.0m以上 10.0m未満	
0.5m以上 1.0m未満	10.0m以上 20.0m未満	
1.0m以上 3.0m未満	20.0m以上	

1:25,000

0 500 1,000 m

【留意事項】

- 高潮浸水想定区域図は、水防法に基づき、補遺府県知事が高潮による浸水が想定される範囲、浸水した場合に想定される水深等を表示した図面です。
- 高潮浸水想定区域図の作成にあたっては、最悪の事態を想定し、我が国における既往最大規模の台風を基本とし、各海岸で潮位幅差（潮位と天文潮の差）が最大となるよう複数の経路を想定して高潮浸水シミュレーションを実施し、その結果を重ね合わせ、最大の浸水深が示されるようにしております。
- 国土庁の調査は、現在の科学的知見に基づき、過去に実際に台風や高潮から浸水したものであり、これより大きな浸水が想定されるというものはありません。
- 最大クラスの高潮を引き起こす台風（中心気圧としては、我が国で既往最大規模の至り台風（昭和9年）を想定しています。なお、この境界の中心気圧を持つ台風が来襲する確率は、三つ浦（東京湾、伊勢湾）で最も500年から数千年に一度と想定されています。
- 浸水深や浸水範囲は、島内の凹地や建築物の影響のほか、前記とした各種条件を越える事象により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなる場合があります。
- 地形図は、主に平成20年度に作成されたデータを使用しており、現在の地形と異なる場合もあります。
- 地下に湧き出ている湧水、エリシキ、湧水口等が、浸水区域に存在する場合、浸水が浸み込む恐れがあります。
- 地盤高が崩壊型高潮位より低い地域については、堤防が崩壊を受けた場合、高潮が押し寄せた後も、日々の干潮により、浸水が発生する可能性があります。
- 確率論的選定のためには、気象庁が事前に発表する台風情報（気象庁は日本列島に大きな影響を及ぼす台風が接近している時には、24時間以内の予報の精度を向上し、予報精度や選定動向が除外されるまで、避難を継続する必要があります。）や、市町村で今後作成されるハザードマップ等を定用してください。
- 白濁が来襲する前に避難を完了し、高潮警報や避難勧告が解除されるまでは、避難を継続する必要があります。
- 今後、数値の精度や表記の変更等により、修正の可能性もあります。

【用語の解説】 (四一)参照

- ①高潮：台風等の気象により発生する潮位の上昇現象。台風や発達した低気圧が通過するとき、潮位が大きく上昇することがあり、これを「高潮」といいます。
- ②浸水域：高潮や高波に伴う越波・越流によって浸水が想定される範囲です。
- ③浸水深：陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地盤面から水面までの高さです。
- ④潮位幅差：実際の動きから算出した天文潮（推算潮位）と、気象等の影響を受けた実際の潮位との差（ずれ）を潮位幅差といい、その潮位幅差のうち、台風等の気象により発生するものだけを「高潮幅差」といいます。
- ⑤高潮水位：台風来襲時に想定される海面の高さを「T.P.」基準で示したものを指します。